

富川市、「第20回富川国際青少年ホームステイ」を 成功裏に終了

海外交流都市4カ国4都市の青少年56人が国境を越えて友情を深める



▲第20回富川国際青少年ホームステイに、富川の海外姉妹（友好）都市である中国ハルビン市、日本岡山市、米国ベーカーズフィールド市と富川市の青少年計56人が参加した。歓迎式での団体記念撮影

富川市は、7月27日から8月2日までの6泊7日間、海外交流都市青少年ホームステイ交流活動を盛況裏に終了したと発表した。

富川国際青少年ホームステイプログラムは、今年で20回目を迎える富川市の代表的な青少年交流プログラムであり、これまで5カ国1504人の青少年が参加した。

特に、今年は富川市市昇格50周年を迎える年で、新型コロナで中止となっていたホームステイ行事を再開した点でさらに意味深い。

今回のホームステイには、富川市の海外姉妹（友好）都市である中国ハルビン市、日本岡山市、米国ベーカーズフィールド市と富川市の青少年計56人が参加した。



▲初日の「富川の夜」には、都市別に準備してきた特技を披露し、親交を深めた

参加したすべての学生は、初日、カトリック大学の寮で1泊2日間一緒に滞在し、「富川の夜」の時間に都市別に準備してきた特技を披露した。初めて会った友達の前で隠れた才能と魅力を発散しながら、互いに親交を深める時間となった。

このほか、都市別対抗運動会、富川韓屋体験村見学、テコンドー体験、景福宮ツアーなど、韓国の文化を体験して学べる様々な体験の機会も設けられた。



▲テコンドー体験の様子

また、大学生サポーターズがホームステイプログラム期間に共に参加し、通訳を支援するなど、海外の青少年たちがうまく適応し、プログラムが円滑に運営されるようにサポートした。

ホームステイプログラムの最終日の歓送式では、参加した学生達にホームステイ参加証明書を授与した。学生たちは、別れを惜しみ涙を流しながらハグを交わした。

今年の歓送式は、海外の青少年を対象にカトリック大学など、管内の4つの大学から留学生誘致のための大学広報説明会を行い、海外の学生から多くの関心を集めた。



▲景福宮興礼門の前で韓服を着た参加学生が記念撮影を行なっている

ある参加者は、「今回のホームステイを機に外国の友達と楽しい思い出を作り、他国の文化を学べる時間となり、非常に有益で有意義だった」と感想を述べた

プログラムに参加した富川市参加者の保護者は、「初めて海外の青少年を家に招待した時はなかなか打ち解けられなかったが、子供たちが仲良くなっていて、毎朝聞かせてくれたピアノ演奏は、みんなを一つにつなげてくれる気がした」として、「お互いの文化を学び合い、思い出を作れるよう機会を設けてくれた富川市に感謝している」と話した。

チョ・ヨンイク富川市長は、「海外の青少年を家族のようによく見守ってくれたホストファミリーの保護者に深く感謝している」として、「今後も多くの青少年がお互いの文化について理解して友情を深め、グローバル人材として成長できるよう、交流の機会をさらに拡大していく」と述べた。

ホームステイプログラムは、2年に1回、相互訪問方式で運営されており、今回参加した富川市青少年は、来年、海外の青少年の家を返礼訪問して交流を続ける予定だ。